



営農NEWS



越冬トマト栽培での灰色かび病や葉かび病などの防除を行いましょう

越冬トマト栽培では、この冬の不安定な気温変動のため、施設内の環境制御や肥培管理に苦労をされていることと思います。これらの影響で、発病時期が前進化している灰色かび病や葉かび病などが発生しており、十分な注意が必要です。

「病害虫発生予報 2 月号（病害虫防除所）」によりますと、1 月下旬現在、促成トマトにおける灰色かび病の発病株率（本年 0.4%、平年 0.5%）、発病地点率（本年 10%、平年 9%）とも平年並ですが、葉かび病は平年より多い発生状況とのことです。

灰色かび病はやや低温を好み、多湿の環境が続けば多発生し、一度多発生してしまうと、なかなか薬剤による防除効果が上がりにくい病害です。また、葉かび病も多湿を好み、多発生すると生育に大きな障害となる病害ですので、灰色かび病と同様の注意が必要です。

今後とも、施設内の発病を抑制する環境づくりおよび薬剤による予防に努めるとともに、施設内をよく観察し、発病状況の把握に努め、発病初期の防除を徹底してください。

なお、暖房の稼働時間が長くなれば湿度の低下や送風による風通しも良くなって、発病を抑制する施設内環境になります。施設内の環境状況に十分注意して、適切な管理作業や防除対策に努めてください。

＜防除のポイント＞

- 1) トマトの健全な生育を促すため、適宜な整枝、剪定による採光や通風の確保、適度な灌水や追肥など、適切な肥培管理に努めてください。
- 2) 花卉の花落ちが悪いと、果実灰色かび病の発生を助長しますので、出来るだけ枯花を取り除きましょう。
- 3) 施設内の多湿条件が続くと、急速に灰色かび病が発生します。昼近くになっても、作物に水滴が残るような場合には、暖房や送風、換気等により施設内の湿度をできるだけ低くするよう努めてください。
- 4) 被害果などを見つけたら直ちに摘除し、施設外へ持ち出して腐熟化させるなど適切に処分してください。施設内や近くに、そのまま放置することは（伝染源となる恐れがありますので）厳禁です。
- 5) 薬剤防除は予防または発病初期から行い、晴れた日の午前中に散布して、夕方までには薬液が乾くようにします。
- 6) 湿度の高い施設では、防除薬剤に「くん煙剤」なども活用しましょう。
- 7) 薬剤耐性菌の出現を抑制するため、同一系統の連続使用は避けてローテーション散布してください。

表 1 トマトまたはミニトマト灰色かび病の主な防除薬剤（平成 29 年 1 月 30 日現在）

対象作物 薬 剤 名	ト マ ト		ミ ニ ト マ ト	
	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
ゲッター水和剤	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 5 回以内	1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内
ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
フルピカフロアブル	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内
ロブラール水和剤	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内
アフェットフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
セイビアーフロアブル 20	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内
ベルコートフロアブル	2,000～4,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	4,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内

表 2 トマトまたはミニトマト葉かび病の主な防除薬剤（平成 29 年 1 月 30 日現在）

対象作物 薬 剤 名	ト マ ト		ミ ニ ト マ ト	
	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
ゲッター水和剤	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 5 回以内	1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内
ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
アフェットフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
ベルコートフロアブル	2,000～4,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	4,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
ペンコゼブフロアブル	1,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	1,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※ J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040